市政を問う 一般質問

議員が市政全般について、その事務の執行状況や将来の方針等の報告・説明を求めたり質問したりすることをいい、毎定例会で行われます。質問者順で掲載しています。

一般質問のあらましを質問者順に掲載しています。　※会派は、令和元年９月現在で掲載しています。

中小企業の支援 お店ぐるりんタクシー

後藤 彰（新風会）

質問　製造業を中心とする中小企業の人材不足に対する支援は。

答弁　中小企業では、非正規労働者や外国人技能実習生で対応しているが、労働力は十分でないと認識している。市は、市内の高校や大学の新卒者をはじめ、子育てなどで一時的に離職した人を対象に、市内企業への就職につなげる事業を実施している。従業員が快適に働き続けられる環境整備も重要であるため、今後の支援をさらに研究していく。

質問　お店ぐるりんタクシーの利用状況と運行上の安全対策は。

答弁　6月の運行開始から徐々に利用者が増加している。高崎地区タクシー協議会に業務を委託し、第2種運転免許保有者が運転を担っており、歩行者や自転車利用者の安全を最優先に運行している。また、許可車以外進入禁止の一部ルートでは警察や関係商店街と連携を図り、交差点では車両の通行スペースを確保する路面標示を施すなど、円滑な運行対策も実施している。

ないか。また投票を促すキャンペーンを行う考えは。

答弁　期日前投票は、オンラインシステムを使用しているため、専用回線の敷設やプライバシーを確保できる会場が必要である。本市では、サービスセンターなどで実施し、投票機会の確保に努めている。またキャンペーンについては、方法や手段など先進地の情報を収集し研究していきたい。

本市の井野川流域の雨水対策 地域包括ケアシステム

大河原 吉明（新風会）

質問　ゲリラ豪雨が頻発する昨今、井野川沿いの低地部分の浸水防止対策が急務であるが本市の考えは。

答弁　低地部分の雨水の範囲や井野川へ流れ込む水路の調査測量を行い、雨水を上流で止めるための水路の付け替えを検討し、河川管理者と協議の上、迅速かつ適切な対策を考えている。

井野川の浸水防止対策

また、水位上昇時に浸水の危険性が高い地域では、随時水位を観測し、早めの避難勧告を発令するなど、人的被害の防止に努めたい。

質問　本市で構築を進めている地域包括ケアシステムの進捗状況は。

答弁　市内29カ所に高齢者あんしんセンターを設置し、高齢者の総合相談、権利擁護、介護予防ケアマネジメント業務に加え、在宅医療、介護連携、認知症施策、生活支援サービスを実施するなど、地域包括ケアシステムの構築を推進している。

また、医療と介護サービスが途切れないよう、関係機関、区長、民生委員やボランティアなどと協働し高齢者を支援していく。

生活困窮者支援 選挙の投票率向上

依田 好明（日本共産党）

質問　生活が厳しく税の滞納に苦しむ市民にとって、国民健康保険税の均等割は大きな負担となっている。子どもに係る均等割の減免が全国の自治体に広がっているが、本市の考えは。

答弁　子どもに係る均等割を免除または軽減することは、子育て世代の負担軽減を図るためには有益であるが、国が制度として確立するべきものと考える。全国市長会などを通じ、支援制度の創設を要請しているため、今後の動向を見守っていきたい。

質問　若者の投票率向上のため、大学のキャンパス内に期日前投票所を設置できないか。

がん対策 放課後の子どもの居場所

小野 聡子（公明党）

質問　AYA世代のがん患者に対する支援は。また治療と仕事の両立のための環境整備は。

答弁　市は、将来子どもを望む患者が、希望を持って治療に取り組めるよう、妊孕性温存治療と、その後に精子や卵子などを凍結保存するための費用の助成について、来年度から開始する方向で検討している。

また、治療と職場生活の両立支援のためにどのような取り組みが最適か情報収集を十分に行い、就労支援の在り方を研究していく。

質問　放課後児童クラブの利用状況と整備状況は。

答弁　小学校の児童数が減少傾向にある中、保護者の就労形態の多様化や共働き世帯の増加、核家族化などに伴い利用児童が増加しており、施設の新設、空き家の賃借、余裕教室の活用などで対応している。

本年度も地域からの要望を踏まえ、3つの小学校区で学校敷地内への施設の建設を予定している。

個人所有(共有)の私道の整備・補修 行政嘱託員に対する交通安全対策

丸山 覚（公明党）

質問　個人所有の私道整備には多額の費用がかかるため、土地所有者、利用者への整備補修費に対する支援の考えは。

答弁　利用者が限られているため、私道の整備を公共事業として行うことは難しいが、利用状況や地域の実情を調査し、公共性のある私道については土地の寄付を受け、補修を行っている。整備補修費への支援は現在ないが、今後も生活環境の向上に努めたい。

質問　市が委嘱している区長や各委員は高齢化が進んでいるため、市として交通安全対策が必要と考えるが、これまでの対応は。

答弁　委嘱により、業務で自動車を運転する機会が増えることから、新任者への事務説明の際に、業務中の事故等への保険対応の説明と合わせ、事故に対する注意喚起をしている。また、各会議や研修の機会に交通安全に関する講習会等の開催を検討し、交通安全の徹底に努めていきたい。

上野三碑の今後の普及促進 東京五輪に向けた取り組み

樋口 哲郎（新風会）

質問　上野三碑のイベントと多胡碑記念館の改修は。

答弁　上野三碑かるたの読み札の応募は2000作品を超え、読み札の清書は高校の書道部の生徒に、絵札の作成は専門家に依頼する。また、11月には講演会や子ども向けイベント、上野三碑覆屋の扉を開く特別公開を実施する予定である。

多胡碑記念館の外壁改修工事は、経年劣化した壁面の塗装などを行い、10月末の完成を予定している。

多くの応募があった上野三碑かるた

質問　事前合宿地として有力視する国への誘致に向けた取り組みは。

答弁　本市は、ポーランド共和国とウズベキスタン共和国のホストタウンである。世界のトップアスリートを迎えるため、武道館の畳の入れ替えやトイレの洋式化、浜川競技場のハンマーサークルの整備を行った。また、室内競技合宿に向け、浜川体育館の空調設備工事を予定している。事前合宿地としての潜在能力は高く、さらなる依頼が考えられる。

有害スラグ撤去 保育無償化に伴う諸課題

伊藤 敦博（日本共産党）

質問　有害スラグの危険性について、広く市民に周知する必要があると思うが、市の考えは。

答弁　非鉄スラグを出荷した会社は、回収や撤去の実施と地域住民向けの問い合わせ窓口の設置などを公表した。市では、公表された内容を市のホームページで閲覧できるようにしている。

また、本市に対する問い合わせも随時受け付け、市民が安心・安全に生活できるよう、出荷元および施工業者等を指導していく。

質問　保育所での副食費の実費徴収に係る問題点と本市における支援策は。

答弁　副食費は、月額4500円を目安に保護者が直接施設に支払うものとされ、低所得者や第3子には負担軽減の措置が設けられた。また、滞納が発生した場合には、各施設からの相談に応じ助言を行う。

国では制度を再検討する動きもあるため、今後も国の動向を注視しつつ、機会を捉え働きかけをしたい。

まめ知識

●AYA世代　Adolescent and Young Adult（思春期と若年成人）の略で、15歳から40歳未満の人。

●妊孕性温存治療　放射線などのがん治療により、将来妊娠の可能性が消失しないように生殖能力を温存するため、子宮や卵巣の温存手術や精子、卵子、受精卵の凍結保存などを行う。